

会議名 (審議会等名)		平成24年度 第1回 川西市産業ビジョン推進委員会	
事務局 (担当課)		市民生活部 商工農林労政課 内線(2543)	
開催日時		平成24年5月29日(火) 13時00分~14時30分	
開催場所		市役所502会議室	
出席者	委員	川口 星美(委員長代理) 上野 和信、大智 靖志、西田 佐智夫、 福本 昭夫、藪内 玲子、木原 恵美子  (欠席者) 佐々木 保幸、深田 政宏	
	その他		
	事務局	大森 直之(市民生活部長)、大屋敷 信彦(地域活性室長)、 中西 成明(商工農林労政課長)、人見 巖	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	(1) 推進委員会の今後のスケジュールについて (2) 現産業ビジョンの総括について (3) 川西市の産業の現状と課題について (4) その他		
会議結果	会議録のとおり		

## 審 議 経 過

(事務局)

それでは、定刻となりましたので、平成24年度第1回川西市産業ビジョン推進委員会を開催いたします。

まず、本日の委員会につきましては、委員9名中7名が出席で、過半数を超えておりますので、本会が成立していることをご報告申し上げます。

なお、本日、佐々木委員長が所用のため、急きょ欠席となりました。委員会規則第5条第2項に基づき、佐々木委員長よりご指名がありましたので、川口委員に本日の議長をお願いしたいと思いますので、ご了承ください。

それでは、川口委員よろしくお願いいたします。

(委員長)

<委員長開会あいさつ>

それでは、早速、本日の議事に移りたいと思います。次第に従いまして進めてまいります。まず、議題1「推進委員会の今後のスケジュールについて」、事務局より説明を願います。

(事務局)

それでは、今後の産業ビジョン策定に当たってのスケジュールについて、ご説明申し上げます。

別紙1「川西市産業ビジョン推進に係るスケジュールについて」をご覧ください。

まず、本日、第1回推進委員会にて、これまでのビジョンの総括と産業別の現状と課題についてご説明させていただき、続いて、来年1月頃に予定されている市議会の議員協議会における説明までに、数回、当委員会を開催し素案についてご議論いただきたいと思いますと考えております。なお、このスケジュールについては、並行して策定作業を行っております第5次総合計画の基本構想の作業工程に左右されますので、若干の変更等があるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

以上で、議題1についての説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(委員長)

ありがとうございました。

それでは、ただ今の説明についてご意見等はございませんか。

(「なし」の声あり)

(委員長)

それでは、この件に関して、特にご質問等ないようですので、このスケジュールに沿って今後、ビジョンの策定を進めていきたいと考えておりますので、委員の皆さまのご協力をお願いいたします。

次に、議題2「現産業ビジョンの総括について」事務局よりご説明願います。

(事務局)

それでは、資料2「川西市産業ビジョンの取り組み状況について」をご覧ください。

まず、1年～3年の短期戦略では、1の事業化検討グループの設立

において、朝市、S O H O、コミュニティビジネスについて事業化に向け、平成16年に検討部会を設置し検討しましたが、実現したのは朝市のみとなりました。

また、2の起業支援体制の整備では、中心市街地活性化推進事業において、インキュベーション施設を中心市街地に設置することを検討したものの実現には至っておりません。続くの市域人材データベースの整備、事業化支援グループづくりにおいても特に進展はございませんでした。

また、低コスト環境の整備として、利用可能な遊休資産の情報収集機能とデータベース整理について、平成23年度における調査を踏まえて今後データベース化を実施したいと考えております。施設利用調整等については特に進展はございませんでした。

次に、チャレンジショップインキュベーター事業の実施につきましては、平成22年度に「来個かわにし」を開設しましたが、インキュベーション事業については、先ほども申しあげましたが特に進展はございませんでした。

次に、5年以内の中期戦略についてご説明いたします。

1の川西能勢口駅周辺の来街要素強化に向けた構想の検討や推進については、新旧中活法のT M O構想や基本計画において取り組んでいるところでございます。

2のコミュニティ生活支援型事業の展開の地域消費生活支援型コミュニティビジネスの展開では、水曜朝市を継続的に実施するほか、手作り商品の委託販売を行う創っ店(つくってん)は当初商工会事業として実施してきましたが、平成15年及び16年の2年で終息いたしました。

また、の地域通貨制度の導入につきましては、当初、商工会事業として実施しておりましたが、その後、地元自治会に引き継がれ継続されております。続く3の起業支援型コミュニティビジネスの展開の情報化支援事業とISOシリーズの認証取得支援事業については特に進展はございませんでした。

最後の4地域資源循環システムの整備の地産地消の推進では、本市で策定された食育基本計画に基づき地産地消に関する情報提供を行っております。

続きまして、10年以内の長期計画についてご説明いたします。資料の2ページ目をご覧ください。

1の都市空間の整備の2項目については特に大きな進展はございませんでした。2の交通アクセスの改善の2項目については継続的に実施しております。

3の廃棄物の減量化とリサイクル推進における2項目については、猪名川広域ごみ処理施設組合による新焼却炉の運転開始とあわせて各事業を一体的に推進し、新焼却炉運転後も継続して実施しております。

最後の4「農地保全、工業地、商業地等での緑化の推進」における農地の保全では、いちじく、桃の即売会などを実施して農作物の普及に努めるほか、森林ボランティアによる自然保護やため池等の農業施設の維持管理などを継続的に実施しています。また、工業地や商業地等での緑化の推進では、工業立地法等において緑化に努めるとともに、事業者が施設の緑化に取り組んでいます。

以上が各事業におけるこれまでの取り組み状況の説明でございます。これを踏まえて当委員会の提言に対して総括いたしますと、まず、インキュベーション施設の創設については、起業家の支援等会場企

業の育成の視点は今後も必要であることから、施設整備は無理としても商工会や市施策の組み合わせなどで、インキュベーション機能を有する展開を考える必要があるかと考えております。

次に、市民参加の実践組織づくりについては、事業者や市民とともにまちづくり事業を行うことが求められているため、そうした仕組みづくりが必要になると考えております。

個別事業及び組織に対する全体的な連携、協働の仕組みづくりについては、これも先ほどと同様、仕組みづくりとともに、各種団体等の把握や連携への働きかけが必要であると考えております。

また、コミュニティビジネスの展開に関する啓発活動については、地域に根差したビジネスが生まれることが理想であるが、福祉施策や補助制度に依存した運営ではビジネスに発展しにくいので、今後、ビジネス手法を取り入れた社会起業家等の育成といった観点で取り組んではどうかと考えております。

最後に、地域ブランドづくりについては、これまでも様々な取り組みを実施してきたもののブランドとして確立できた商品等がないことから、今後も積極的なPRや連携に取り組む必要があると考えております。

以上、雑駁な説明となりましたが、議題2の現産業ビジョンの総括についての説明とさせていただきます。よろしくご協議いただきますようお願い申し上げます。

(委員長)

ありがとうございました。

以上の説明について、ご質疑等がありますか。

(委員)

全体的に、特に進展なしや継続となっている事業が多いが、これからつくるビジョンに反映させるという考えでいいのか。

(事務局)

進展しなかった事業が、10年が経過して今も必要であるかどうかよく検討した上で、ビジョンに反映していきたいと考えており、基本的に、前回のビジョンを踏襲するような方向性になるかと考えております。

(委員長)

ほかにありますか。

(「なし」の声あり)

(委員長)

本日いただきました意見等に基づき、事務局の方で修正等を加え、再度、総括報告として整理いただきますようお願いいたします。

続いて、議題3「川西市の産業の現状と課題について」事務局より説明を願います。

(事務局)

それでは、資料3「川西市産業ビジョン素案1」をご覧ください。

第1回目の資料としましては、産業ビジョンの政策枠組みと各分野ごとの課題について整理をさせていただいております。

まず資料 1 ページですが、当産業ビジョンは、市第 5 次総合計画の下位計画として策定するもので、その総合計画で施策の枠組みとして位置づけている「賑わう、市民が賑わいを支える 利便性と魅力にあふれたまち」というライフシーンと目標を踏襲することとしております。

2 ページをご覧ください。ここでは、ビジョンの方向性を記述しておりますので、文面を読ませさせていただきます。(資料 2 ページ朗読)

次に、3 ページをご覧ください。ここでは、産業全体の現状をはじめ、商業、工業、農業の 3 分野の現状と課題について事務局案を提示させていただいております。

まず、産業全体では、リーマンショック以降の経済が低迷し、総生産額が急激に減少しています。また、産業構成比では、サービス業、卸売・小売業、不動産業で 80% 以上、総生産額で 60% 以上を占めており、住宅都市として発展してきた本市の特徴が出ています。このようなことが、3、4 ページのグラフ等で読み取れます。

次に、商業の現状としては、近隣市における大型ショッピングセンターの進出により買い物客が外部へ流出しているほか、個店・商店会の経営が著しく悪化し空き店舗が目立ち始めています。特に多田地区や国道 173 号沿いにおいて空き店舗が目立つ状況にあります。

このような現状における課題としては、1 として、中心市街地の集客力が低下している。また、2 として地域内での大型小売店舗の存在に加え、近隣他都市での相次ぐ大型小売店舗の出店が、買い物客の市外流出を促し、地域の商店会の売り上げが減少し、空き店舗が増加しているほか、三つ目として、商店会の憩いの機能や人と人とのつながりがなくなっている点が考えられます。

次に 10 ページに移りまして、工業の現状と課題でございます。

まず現状としては、事業所数や従業員数、製造品出荷額等が減少しており、周辺市町と比較すると事業所数は伊丹市に次いで多くなっています。また、一事業所当たりの従業員数や製造品出荷額等は他と比べて低く、依然として中規模・小規模の事業所が多く集積している現状があります。

これに対する課題としては、世界金融危機以来の景気低迷を背景に事業所数及び従業員数が減少しているということが考えられます。

続いて、農業の現状としましては、阪神間という農林産物の大消費地に近接しており、市街化区域では生産緑地を中心に軟弱野菜やいちじく、桃などの果樹が市場へと出荷され、中北部地域では、水稻や野菜の栽培をはじめ、山間部で切り枝や栗などの栽培が行われ、直売所への出荷が行われています。

これに対する農業の課題としては、農業従事者の高齢化や担い手の減少が進み、耕作放棄地が増えている。二つ目に、農業・商業・観光の連携による特産品の商品化が求められている。或いは、地産地消に根差した安心・安全の農産物の生産が必要であるといった課題が考えられます。

以上が各産業別の現状と課題について説明させていただきましたが、これはあくまで事務局が考えた案ですので、今後、各分野の事業者等にヒアリングを行い、さらに課題整理を行ったうえで、今後取り組むべき方向性について提案させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(委員長)

ありがとうございました。

ただ今の説明について、ご質疑等はありませんか。

(委員)

農業の分野で、今市の方で「農業経営基盤強化促進法」に基づく基本構想を策定されていると思いますが、今後のビジョンの中でその辺は入れていただけるのか。

(事務局)

委員がおっしゃられている基本構想については、今年度中に策定する予定で、ビジョンの中にも当然のその内容が盛り込まれることになるかと考えております。

(委員)

先ほど、前回のビジョンについて総括されましたが、基本的に前回の内容を踏襲されるということですが、経済や社会情勢がこれだけめまぐるしく変わり、先行きが見えない状況となっている今だからこそ新しい視点で思い切ったビジョンが必要かと思いますが、その辺はいかがでしょう。

(事務局)

確かに委員がおっしゃるとおり、本市の産業は経済の低迷等を受けて振るわない状態となり、また、先行きの見通しも立ちにくい状況となっています。また、本市の財政状況等を勘案しますと、特にアステのリニューアルなどハード面での整備は非常に難しくなっておりますので、今後はソフト面の施策でなんとか産業振興を図る施策を検討し、このビジョンにも反映したいと考えております。

(委員長)

他にありませんか。

(「なし」の声あり)

(委員長)

それでは、まとめさせていただきます。

本日、皆さまからいただきましたご意見や各種団体から聴取された意見をもとに、次回までにまとめてご報告いただきますようお願いいたします。

それでは、これで本日の議事は終了いたします。続いて、次第の4「その他」ですが、事務局の方で何かございますか。

(事務局)

次回の委員会開催日ですが、概ね7月中旬から下旬辺りで予定をさせていただきます。本日、ご欠席の佐々木委員長との調整も必要ですので、改めて日程調整させていただきますのでよろしく願いいたします。以上でございます。

(委員長)

それでは、これをもちまして閉会とさせていただきます。  
どうもご苦労様でした

主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。